

親鴨だより



2013年 5月号
第273号

ここ数年、気候変動が激しく酷暑、酷寒 豪雨、豪雪が目立ち、緩やかな四季の訪れの実感が少なくなっている様に感じます。その中であって日本の5月は比較的安定した気候に恵まれ一層活動し易い季節であります。会員並びにご家族の皆様におかれましては益々ご健勝のことと推察いたしております。先月各地で総会が開かれ親鴨会活動もこれから本格的に開始される時期に入りました。今年度も親鴨会活動が益々活発に展開されますよう期待いたしております。

昨年は、問題を挙げればきりが無い程、政治の混迷に明け暮れた1年でした。その中で ips（人工多能性幹）細胞を作製した山中伸弥京都大教授のノーベル賞受賞は、日本に明るい話題を提供してくれましたし、経済も政権交代で今年は「アベノミクス」と称して金融政策、財政政策、成長戦略を3本の矢として推進中で、その結果、為替、株価共に景気上昇への傾向を匂わせております。日本再生の気配が本物であるように願い、併せて東日本大震災で未だ復興まならぬ地域の日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、私事ですが昨年、後期高齢者の仲間入りをしまして「健康長寿」をちょっぴり意識するようになりました。それには心身が健康であらねばならないと、昨年より縁あって野洲学区老人クラブの役員を務め、「健康、友愛、奉仕」を三本柱として活動していますが、親鴨会行事活動と似通ったところが多々あり目下軽やかな毎日を送っております。

野洲支部の現状について少し触れておきますと、長年悲願であった会員数が昨年10月に200名を超え現在204名の会員数となっております。事業所拠点が無くなって7年、今尚会員数が増えて行く現状を我々役員一同特筆すべき事柄と受け止め、やりがいを持って活動推進に努めてまいります。これは原点回帰というべきか、野洲事業所から他の事業所へ転籍しつつも最終的には野洲支部へ帰られること、加えて現会員が元気であるということでしょう。仲間同士刺激しあってお互い元気を貰い、活性化への相乗効果の場が親鴨会行事と思います。今年も行事に積極的に参加して活力あふれる毎日を過されますよう期待いたします。

「親鴨だより」5月号をお届けいたします。

野洲支部：柴原 喬